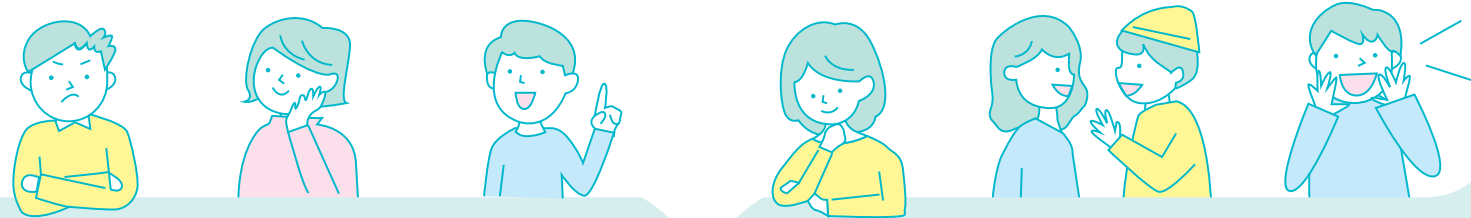


YOUTH SERVICE ユースワーク を考える



2009年から作成・発行をしてきた「YOUTH SERVICE (ユースサービス)」は、今号で遂に39号となりました。39号……さんきゅう号……サンキュー号! ということで、これまでたくさんのご協力をいただきながら進めてきた「ユースワーク」についてどのように考えているのか、これまでの京都市ユースサービス協会の取り組みを特集しました。

イギリスを起源とする「ユースワーク」。その意味と意義は何か、より明確に言語化することを目指す定義検討の場をはじめ、私たちは“ユースワークについて考える場”を様々持ってきたほか、日々実践を重ね、そして広く「ユースワーク」を知っていただくべく発信を続けています。その具体例をご紹介します!



ぷちメッセージ

青少年活動センター を想う

山科青少年活動センター 運営協力会会長
有限会社 川長商建
代表取締役
川中 長治



私とセンターとの出会いは、勤労青少年ホームが青少年活動センターになるタイミングで、知人から「寄ってくれないか?」と声をかけられて運営協力会の会員になったことがはじまりです。「青少年のためになるなら」と先輩方の意思を引き継ぎ、現在、会長職をしています。当初より、委員も増え、関係委員の皆さまとともに歩んできました。

総会では、センター事業について協議共有をし、青少年のためのいろいろな事業や取り組みを考える機会を持っています。その中の1つに、「街の探検隊」という、青少年ボランティアが中心となり、ホテルをキーワードにして、地域の子どもたちにも自然や街に愛着をもってもらうことを目的とする事業も実施していました。

また、近年実施している拡大会議(青少年による活動報告・懇談会)では、いつも「若者はすごいなあ」と若者から元気やエネルギーをもらっています。そんな若者の皆さんにも大事にしてほしいと思っていることは挨拶や礼儀、「思いやり」だと常々感じています。私もこれからも“思いやり”をモットーに皆さんと一緒に青少年を支援していきたいと考えています。

contents

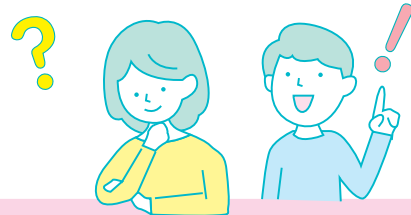
- 3 特集
「ユースワーク」を考える
- 8 高校生と作ったページ
高校生が「18歳成年」
について考える
- 10 シリーズ
はたらく若者
- 12 TOPICS
アウトリーチ
- 14 ユースかわら版
『CHEER(チアー)』しています! ほか

公益財団法人京都市ユースサービス協会は、京都市内7カ所の青少年活動センターと、子ども・若者総合相談窓口、生活困窮世帯の学習支援事業、社会的養護自立支援事業の一体的かつ効果的な運営を指定管理者として受託しています。青少年活動センターは、それぞれの施設・設備に特徴があって、個性的な事業活動をしています。また、厚生労働省から若者サポートステーションの運営を受託し、若者の社会的自立や職業的自立に向けた支援も行っています。

ユースサービスの理念

「ユースサービス」とは、子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援することです。子どもたちが家庭、学校、地域社会、職場などを通じて成長し、自分自身の興味や関心を高める過程で、必要に応じて助言や情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。そして青少年自身の参加によって、青少年と協働の豊かな地域社会を創り出すことを目的としています。





京都市ユースサービス協会で
取り組んでいる
あんなことやこんなこと

私たちはこうやって「ユースワーク」を考えています！

ユースワーク とは何か？

～定義を考える～

京都市ユースサービス協会
シニアアドバイザー
ユースワーカー協議会代表
水野 篤夫

京都市ユースサービス協会と立命館大学の共同研究（ユースワーカー養成研究会）において、「ユースワークとは何か」という問いに端的に答えるための作業を一昨年から進めてきました。研究会の中に「部会」を設置して、外部からもユースワークに詳しい研究者を招いて検討するとともに、現場ワーカーからの考え方を取り込む作業や、オープンな場での議論も間に挟みながら、ようやく「ユースワークの定義（研究会版）」をまとめました。学問的な言語化とともに、若者と関わる現場スタッフそれぞれが、自身は何を「願い」として若者と関わる現場において、それをどのように仕事として表現しているか、自身の職務基盤を確かなものにする作業でもあったと考えています。

ユースワークの 定義まとめは どんな意味がある？

「ユースワークとは何か」を明確に語れるようになることで次のようなことを狙いました。

○各地の実践者・実践団体が「ユースワークとは何か」を語る共通基盤ができる。
○ユースワークの独自性（他との違い）を説明することでユースワークの価値を幅広い関係者（市民・行政・関係団体・若者）に理解してもらう。

○ユースワーカー養成がなぜ必要かを説明出来るようにして、大学のなかでの養成課程の基盤づくり、各地の大学や行政・関係団体での養成につなげていく。

実践現場の 言葉を吟味する

「定義」を考える作業は「言葉」を編む作業です。私たちが日頃、使っている言葉についても、突っ込んで確かめると曖昧な使い方をしている、実践者間でも違う捉え方をしていることにも気づきました。例えば「移行期の若者」という表現について研究者から、「移行期にない若者がいないとすれば意味が重複しているよね？」等と指摘がされたり、若者の成長を「目指す」と言ってきたが「若者に成長せよと強いることは問題では？」との投げかけを受けたりしました。その度に「言葉」や表現の意味を吟味し直して、実践の場でやっている中で大事にしていることが伝えら

れる言葉を探す作業を繰り返してきました。

ユースワークで 大切に していること

定義を
作っていく中で
見えてきたこと

まだこれは、京都での実践を基盤とした定義案です。これとセットの「定義の背景にある考え方」文と合わせて、もっと幅広い実践者、研究者、関係者（行政の人なども含めて）はもちろん、若者からの意見ももたらってグローバルに通用する考え方に向けて精査していく必要があります。この定義を世に問うて「ユースワークとは何か」の議論を活発にしてい



事例研究会

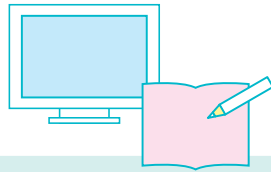
協会内の職員で集って「ユースワーク」を考える場をもっています。日々青少年を中心に関わる中で、「あのとき自分はこういう対応をしたが、他にはどういう対応がきたらうか」とふりかえったり、「こんなことがあってうれしかった、うまくいった」と実感したりする場面が多くあります。事例研究会では、こうした日々の実践の一面や積み重ねを参加者同士で定期的にシェアし、意見交換を行っています。この場を通して、ユースワーカーらしい考え方や行動・想いを言語化していくことが目標です。そして、その考え方や行動の基礎となる事例知識を積み重ね省察していくこと、また、協会職員がチームとして青少年と関わっているような共通認識を深めることを目指しています。

ユースワーカー協議会

当協会と、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会、公益財団法人よこはまユース、名古屋ユースクエア共同事業体、NPO法人こうべユースネットの5団体のスタッフが呼びかけ人となって設立された協議会です。全国様々な団体が青少年育成や若者支援に携わっていますが、それらが専門職業として扱われているヨーロッパ圏と比較すると、日本はより専門性の確立と社会的認知度の向上を目指していく必要があります。そこで、この『ユースワーカー協議会』においては、ユースワークの考え方を共通基盤に据えた、実践者同士のつながりの場・研鑽の場があります。具体的には、現場見学会や研究会、シンポジウムを通しての実践者交流や、ユースワーカー養成プログラムの実施・検討・教材開発、ユースワーク実践および基盤強化のための調査・研究、ユースワークに関する情報発信などを行っています。こうして、団体を超えた実践者同士のつながりの場も、「若者の成長を支える仕事とは何か」「ユースワークとは何か」を考える機会となっています。

若者支援とユースワーク研究会

法政大学社会学部平塚真樹教授の『若者支援・ユースワークに関わる専門性の育成・評価をめぐる国際的共同研究（2020・2023）』のメンバーに加わり、国内外の研究者、実践者とともに研究活動を行っています。この研究会は、2012年からはじまり、日本・イギリス・フィンランド・デンマークを主なフィールドとして研究をしています。各国のユースワーカー、若者支援実践者、研究協力者と交流し比較研究を行ってきました。ユースワークの価値・意義を言語化し、発信する等にも取り組んでいます。現在は、イギリスのユースワーカーたちが始めたストーリーテリングワークショップを行い、〈Storytelling（実践の語り）からDocumentation（実践記録へ）を通して、ユースワークの価値や意義を言語化する活動を進めています。また、研究のまとめとして、書籍を作成中。Storytelling（実践の語り）からDocumentation（実践記録）について、紹介予定です。



ユースワークを広めるために



2006（平成18）年から、立命館大学と当協会が「ユースワーク」について共同研究をはじめました。その一環として、大学院応用人間科学研究科（現人間科学研究科）にユースワーカーを養成する、全国初めてとなるユースワーカー養成プログラムが設置されました。このプログラムでは、講義や演習だけではなく、主に京都市内の青少年活動センターで90時間を超える実習も行い、ユースワークに必要な考え方・態度・スキルを実践的に学び、対人援助者の養成をしています。

このプログラムの修了生は、全国各地でさまざまな現場で若者支援に携わっています。

立命館大学大学院 ユースワーカー 養成プログラム



ユースワーカー養成講習会

当協会では、さまざまなコミュニティにおいて若者の成長支援を行うための専門的力を育てるため、若者の「いま」と「これから」を支えるユースワーカーを育てる「ユースワーカー養成講習会」を実施しています。

「修了認定コース」につながる「基礎講習」を実施し、ユースワークの概論、青少年に関わる上での自己理解など、ユースワーカーとしての基礎を2日間で学びます。数年前より、他都市から依頼をうけてユースワーカー養成講習会の出張講座も実施しています（例：石巻、名古屋、横浜など）。

全国各地でユースワーカーの輪を拡げて若者にとって有効なかかわりの場を、確かな場にしていくための仲間を増やしていきたいと思っています。

参加や開催希望については、お気軽に事務局までお問い合わせください。

まとめ

私たちユースワーカーが、大切にしていることや、日々行っていることについてまとめました。

「ユースワークとは何か」、私たちは日々考え、語り合い、試行錯誤を重ねてきました。当協会の中だけではなく、他団体の実践者や研究者、関係者の皆さんとも議論を積み重ねてきました。そして、定義ができあがりつつあります。

私たちはこれからも日々の実践をすすめながら、考え続けます。そして、もっとたくさんの人に知ってもらいたい！ 若者支援や理解の輪を拡げていきたい！とも考えています。

この特集をきっかけに、より多くの方にユースワークについて関心をもってもらい、若者支援（伴走する大人やサードプレイスの大切さ）について共感する方が増えてほしいと願っています。今後多くの方と協働しながら、若者にとって必要なユースワークを拡げていきたいと思っています。

これからもご支援ご協力の程よろしくお願いいたします。

ユースワークの現場



参加型プログラム

各センターで実施している参加型のプログラムには、様々な青少年が来ています。居場所を求めている若者、プログラムの内容に「面白そう」と来る若者、「グチ聞いてほしい」「何か話したい」と思ってくる若者、「やってみてからなんとなく来てみた」という若者などなど。様々な青少年が来る場だからこそ、それぞれができる限り気持ちよく過ごせる場となったり、何かを得られる場となったりすることを目指したい！ そのような場となるよう、ユースワーカーとして、「どのように青少年ひとりひとりに働きかけたらいいだろう」「どういうふうに関全体をコーディネートしたらいいだろう」と日々考えています。



自主活動応援

青少年が参加する場をつくることもあれば、青少年の方から「実は〇〇をやってみたいと思っているんです」「今こういう活動をしているんですけど、広報に協力してもらえませんか？」とアプローチがあることも。もともと別の目的でセンターを利用していた青少年と日々会話を重ねる中で、そういった想いを聞くこともあれば、こちらが発信している「自主的な活動をサポートします」という情報を見つけて相談しに来てくれるパターンもあります。こうした機会は、今までセンターを利用していなかった青少年にとって、気軽に話することができるユースワーカーの存在を知ってもらうためのきっかけになっていて、その後の関係づくりにつながっています。

ボランティア活動

センターでは、多種多様なボランティア活動を実施しており、年間800名近い青少年がボランティア活動に参加しています。「とりあえず何かしたい！」といった場合もユースワーカーと一緒にボランティア活動を見つけていきます。ボランティア活動の基本は、一人ひとりが主体的に活動することです。行動する機会があれば、多くのことに気づき、学ぶことができます。その気づきは、自分自身についてだけでなく、他者や社会にまで広がります。当協会では、ボランティアも青少年支援活動に対する理解者として、「ともに発見し、成長するパートナー」であると考えています。ユースワーカーとボランティアが協働することによって、より広がりを持った事業を展開しています。



ロビーワーク

センターのロビーにはさまざまな人がいます。1人で過ごしている若者、友人と楽しくおしゃべりをしている若者たち、マンガを読んだり、ゲームをしたり、勉強をしたり、お昼寝をしたり……過ごし方は自由自在。ユースワーカーは、青少年が気軽に利用する場になるように日々試行錯誤をしながら、何でも話せる存在としての関係づくりをしています。受付での他愛もない会話が関係性の一歩目です。普段の関わりだけではなく、センター利用者を巻き込む事業として、ロビープログラムを各センターで実施し、掲示型やイベント型のロビー企画までさまざまな形で青少年と関わりをもち、交流を深めています。

